

## 徳島県総合計画審議会未来創造部会 会議録

I 日時 平成22年7月1日(木) 15:00~16:30

II 会場 県庁10階 大会議室

III 出席者

【委員】11名中 9名出席

近藤光男委員, 近藤明子委員, 林志歩委員, 山上敦子委員, 小部博正委員,  
津川なち子委員, 服部和彦委員, 浜口伸一委員, 浜口智子委員

【県】知事, 企画総務部長, 各部局副部長, 政策企画総局長 ほか

IV 会議次第

1 開会

2 議題

(1) 次期計画の策定について

(2) 県民からの意見聴取の結果について

(3) その他

《配付資料》

資料1 新たな県政運営指針となる計画の策定方針

資料2 次期計画における三層構造のイメージ

資料3 徳島県総合計画審議会部会設置規程

資料4 県民からの意見聴取の結果

資料5 「私が描く10年後のとくしまの姿」主な意見

参考資料 オンリーワン徳島行動計画(第二幕)及び概要版

参考資料 データで見る徳島県の姿/未来技術年表

参考資料 グラフで見るOURとくしま

参考資料 都道府県別指標2010

参考資料 「新成長戦略」について

V 議事録

1 開会

2 議題

(1) 次期計画の策定について

- (2) 県民からの意見聴取の結果について
- (3) その他

### 3 意見交換

(委員)

資料4を見ると、「U・I・Jターンの促進」に関し、多くの意見が寄せられている。

「U・I・Jターン」の促進に関しては、徳島の魅力をアピールし、徳島に来てもらうことが、メインになってくると思うが、徳島の魅力をどのようにアピールしていくか、その手法が大事になってくると思う。

47都道府県あって、その中から徳島県を選んでもらう。徳島の魅力は自然だから、「自然をアピールしましょう」と言った時、語弊があるかもしれないが、自然というのはどこにでもあると思う。その自然の中で徳島県特有のものを発見し、それを他県の人に伝えていく必要がある。

ここには、たぶん2つの課題があると思う。

徳島をもう一度見直し、どんな良いところがあるのか発見することが1つと、もう1つは、それをどのようなメディアを使って、どのタイミングで伝えていくのかということ。

この2つを今後検討していかなければならないが、これを検討し、実行した時には、県民の意見の中にもたくさんあったが、「交流の促進」ということにも繋がってくると思う。この交流促進に関しても、魅力の創出とか再発見ということが非常に重要であり、それをどのようにアピールしていくかが、非常に重要になってくると思う。

それに加え、交流に関しては、交流のスポットを線で繋いでいく必要があり、どのように繋いでいくかは、インフラ整備を行うだけではなく、サービスを充実させるということも併せて、今後検討していかなければならない。

(部会長)

人口というのは、社会の大きな基盤であるが、問題は2つある。人口減少とそれに対する対応、もう1つが地域間交流である。現状で、人口減少は、受け入れざるを得ない中で、交流を増やすことで地域活性化を進めていく。

大事なものは、なぜそういうことをするのか、どういうプロセスでやっていくのかということだと思う。どうするのかは、これから一生懸命皆さんと考えていきたいと思う。

(委員)

人口の問題が出たので、医療・福祉関係ということで、発言をさせていただきたいと思う。徳島県は総人口の減少が始まっていて、65歳以上の高齢人口は2020年にピークを迎えて、以後は減少に転ずると予測されている。

しかし、医療・介護ニーズの高い75歳以上の後期高齢者については、2020年以降も当面の間は増加が続くという推計になっている。

2010年から2015年までの5年間を見ただけでも、65歳以上の人口が23,000人増える。現在、徳島県の要介護認定の認定率が約20%なので、単純に推測するだけで4,600人の要支援・要介護者が増えることになる。

徳島県は、医療施設・介護施設・福祉施設の状況は全国的に見ても進んでいる。資料を見ても、1位や4位など、施設数は多いが、この先、2020年から2030年のことを考えると、これでも本当に大丈夫なのかと思う。2030年になると75歳以上の人口も減少に転じるが、やはりそのところまで考えなければならないと思う。

ここで、今回の糖尿病のメディカル・ツーリズムと同じ考え方で、状況を逆手に取ればどうか。施設が多いということに関し、今までどちらかという、自治体の首長は、「保険料が上がるから嫌だ」「造りたくない」とマイナスイメージで捉えていたと思うが、ここは施設を減らしていくとか、縮小する方向ではなく、メディカル・ツーリズムと同じように逆手に取っていただきたい。

日本全国を見ると、例えば埼玉県が一番すごいが、埼玉県は2030年までの間に65歳以上の高齢者人口が68万人増える。徳島県の人口が2030年には60万人になるというような推計を聞いたことがあるが、徳島県ぐらいの人口の高齢者が埼玉県にできる。そういうところに目を向ける必要がある。

雪が降る地方では、高齢者は雪かきに苦労している。デイケアの送迎にもソリで行くと聞く。それから考えると徳島は雪は降らないし、本当に良い所だと思う。

そこで、日本全国、できれば高齢者が急激に増えている中国にも門戸を開いても良いと思うが、まずはせっかくあるこのインフラを上手に利用し、高齢者を徳島に呼び込めば良いと思う。

徳島の医療・福祉・介護の関係者はよく努力し、よく勉強し、人材も育成されていると思うので、それを外に開いていければ良いと思う。人口の問題に関し、医療・福祉の観点からそう考える。

(委員)

商店の観点から、今までの話をお聞きしながら、確かに色々なデータを見ると、今後高齢化社会になっていった時に、医療とか福祉は非常に大切だと思う。事前にいただいた資料の「新成長戦略」の中でも、医療と福祉に対してかなり力を入れているのが分かる。

私は医療の専門家ではないが、緊急雇用対策などで、一時期、ヘルパーをたくさん雇った時があった。それはそれで、良いこととは思っていたが、本当にその人達が「雇用」という面で満足しているのか疑問に思う。

雇用期間が1年間だけであったり、2年間だけであったりするので、今後、長いスパンでそういった方々を雇用していく際には、その方のスキルアップを図っていかなければならないと思う。

最近よく思うのは、県庁とか市役所の施設で、臨時従業員みたいな方を雇っているが、結局その人達がしている仕事は、例えばゴミ拾いなど、その人の満足感に繋がらない仕事であり、本当に良い人が育っていくのか、非常に微妙である。

例えば、今後、医療や福祉といった分野での雇用の際には、その人のスキルをきちんと継続して、その仕事に就けるような状況をつくっていくということが必要ではないかと思う。

また、先ほど「交流」という話があったが、仕事や個人のスキルアップのために、県内外の人と様々な形で交流を図っていくべきと思う。

(委員)

家族でよく「徳島県は今後どうなるのか」という話をする。「限界集落」という言葉をよく聞かすが、「このままいったら、『限界県』になるのでは？」ということで、話が終わる。

では、そうしないためには、どういったことが必要かということで、知恵を絞って考えるが、やはり「住み続けたい町」あるいは他所から見て「住みたい町」ということだろうと思う。それはどういうことかということ、やはり色々な意味で「安全・安心」ということだと思ふ。

私が1つ思うのは、「地産地消」ということで、徳島県は生産県のイメージがあるが、自給率は44%であり、実際のところはまだまだ「地産地消」ということで、県内の人が県内で作られた食料を食べていないのではないか。

それから、エネルギーの「地産地消」ということも、今後は考えるべきではないかと思う。経済もそうだが、地域の中で、何か雇用の創出というようなことも、できていくのではないかと思う。できるだけ県の中の「地産地消」、色々な意味での「地産地消」を進めていく知恵というものが必要なのではないかと思う。

また、私は十数年前にドイツの環境視察に行かせていただいたが、当時ドイツでは温暖化を「地球の悲劇的な結末」と呼んで、エネルギー政策や交通政策、廃棄物の政策が進んでいた。

この10年間の徳島県を見た時に、少しずつ進んではきているが、10年経ってもまだ当時のドイツのような政策というところには行き着いていないように思う。

唯一、誇れるところがあると思うのは、「マンパワー」である。10年前と比べて、環境に携わるNPOや県民の方たちの意識も向上してきたし、NPO法人等の数も増え、地域で活動する人達も増えてきた。全ての年代に関して増えてきていることを実感しているので、そうした「マンパワー」をフルに活用していけば、色々な知恵も出てくるのではないかと期待をしている。

(委員)

私は木材関係の仕事をしている立場で、また県西部という立場で提言したいと思う。

資料をたくさん頂いて、「新成長戦略」も「こんな国になったら良い」と思うが、実際は政局も不安定で、また、参院選の真っ只中でもあり、これを参考にして「こうだ」とは、言い難い時期のような気がする。

総論的な話として私から一言申し上げると、先ほどの人口推移の話で2020年が73万人、今年の年初の徳島新聞によると、放っておくと2030年頃には65万人になるというような記事があったと思う。8つの市町村が半分以下の人口になるということのようである。私は田舎の方に住んでいるので、今も年寄りが多く、子どもが少ない地域に住んでいるが、さらにこれが半分になると、なかなか想像し難い現状になってくる。

私が住んでいる地域で言うと、やはり人口減少を何とかして止めてもらいたい。行政に対しては、この傾向に歯止めをかけてもらいたい。1人でも2人でも子どもを増やす努力を、もっとするべきではないか。これが、最優先課題ではないかと思う。

人口は、ちょっと抵抗したぐらいではなかなか増えず、減り続けるだろうと思うが、少なくとも都市から帰ってきた人が住めるようなまちづくりが必要である。徳島市はある程

度のまちづくりができていますが、地方に行くと、色々な施設が点在していたり、非常に住みにくい状況になっている。

そこで、よく言われる「コンパクトシティ」というものを、行政インフラで造り上げていく必要があると思う。

田舎だからこそできる「コンパクトシティ」、特に高齢者や子ども達にとって住みやすいバリアフリーの小さな町を、造り上げてほしいと思う。

また、そういったインフラ整備に伴って、雇用も生み出してもらいたい。

今は「コンクリートから人へ」だが、私はどちらかということコンクリート系の人間で、どうしても「公共投資を増やしてもらいたい」といった意見になってしまうが、何といても、公共投資は地方の生活基盤の根源である。そういった面も意識しながら公共投資を適宜行ってもらいたいと思う。

林業という観点から言うと、温室効果ガスの問題、あるいはCO<sub>2</sub>を吸収するということからすると、今、森林にたくさんのインフラ投資をしてもらっているが、さらにこれを発展させ、いわゆる自然エネルギーの循環型社会を、目指すべきと思う。

高度成長下における経済的な繁栄、我々は若干バブルも体感したし、良い時期も経験したが、今後、そういった満足感というのは、なかなか得られにくい時代になると思われる。

友人で土木をやっている人が、最近農業をやり始めた。数年前まで土木で年間3~4億円の売り上げがあったが、農業では3千万、10分の1になったとのことであり、それでもやっていかなければ、仕方がないとのことであった。

これは一例であるが、そういった経済的な売上げ増や右肩上がりのイメージから早く脱却し、そのような中でも、幸福感を得られるような社会が求められていると思う。

(委員)

私も皆さんと気持ちの面では同じだと思うが、次期計画を策定するにあたり、まず取り巻く状況というのは、しっかり整理しておく必要があると思う。

その状況から、県民の皆様が「10年後のとくしまの姿」ということで、意見を出しているのを見ると、やはり徳島県の強みとか弱みが、この一覧でも5つの分野で交錯していると思う。

強みの部分は、今の方法でうまくいっているのでも、どんどん伸ばしていくことができると思うが、弱みの部分は、やはり違うやり方で新しい視点を取り入れて、取組方法を変えていく決断とか勇気が必要だと思う。

私たちが徳島県ですっと生活していくためには、環境とか住みやすさが重要で、安心感であるとか、自然であるとか、徳島県の良い部分というのは、誰もが感じていると思う。

そこに経済的な恩恵、経済的なインセンティブも欲しいという話があった。単にその地域のものを地域だけで消費するということではなく、「地産地消」の「消」は「商」に置き換え、その地域の産品や伝統を他県に向けて発信することで、地域や自分に何らかの恩恵が得られる仕組みがないと、長続きしないと思う。

少し話がずれるが、参考資料の「グラフで見るOURとくしま」は、今年始めて作成したとの話であった。この冊子に家族のようなキャラクターが出ている。これなど、徳島県が、今、力を入れているアニメを活用し、企業とコラボレーションのような形でタッグ

を組んでも面白いのではないかと思う。各項目ごとに、キャラクターがその分野を責任をもって県民にアピールするとか、他県に出張して、何か目で見える形で情報発信するとか、形に残るものを県民と一緒に共有し、徳島県を盛り上げていくと面白いと思う。

(委員)

私は美波町の小さな町に住んでいて、そこで仕事をしながら、ボランティアという形でまちづくりとか、観光に関わるようなことをやってきた。私は今までの経験でしか物事を喋れないので、徳島県全体の話というのは、スケールが大きく、私には想像がつかないようなところもある。

美波町で一般的に知られているのは薬王寺であったり、海亀の産卵地の大浜海岸であり、大きな観光資源としてはそれぐらいのものかもしれないが、町の魅力を構成しているものは、そういった大きなものだけではなく、町の中にもたくさんあるのではないかと思う。

「観光で人を町なかに呼び込みたい」「新たに住んでもらいたい」といったことを考えた場合、町にどういうものがあるって、どういう歴史があるのかをもっと知ってもらう必要があるということで、私は「みなとまちづくり協議会」に参加している。

地理的なことを言うと、美波町は薬王寺と大浜海岸の間に町があり、大きな観光資源2つに町が挟まれている。観光客は、薬王寺と大浜海岸の2極を車で移動するだけで、町に人が入らない、歩かない、見てもらえないという状況がある。

観光客を町なかに引き込むために、「町なかをPRするものを作ろう」ということで、私がデザイン、絵を描くことから、「みなとまちづくり協議会」で「絵地図」を作ることとなった。

なぜ、「絵地図」が必要かということ、行政が作ったパンフレットとかマップには、色々な制約があり、公共施設や大きな観光スポットしか載っていないようなことがある。

実際に町にどんなものがあり、どんな楽しい所があるのか、どんな見どころがあるのかは、そこに住んでいる人が一番よく知っている。本当にPRしたいものが載っているパンフレットやマップが必要ということで作成した。

作成にあたっては、何も知らないところから始まったため、実際に自分たちで歩いて、1つ1つ探していったが、日ごろ目にすることはあっても、「それが何故そこにあるのか」「どういう歴史があるのか」ということを、知っているようで知らなかったりする。

そういうものを探しながら、絵地図に落とし込んでいくにつれ、これは観光客のためだけのものではなく、町の人にもう一度自分の町を知ってもらうためのものになるのではないかということに気付いた。

教育委員会からも声がかかり、学校の授業でも使用されるなど、当初の思惑以上の展開を見せ、色々な人から良い感想をいただいた。

この徳島の町も知っているようで知らないと思うので、そこに住む人が、もう一度自分で足を使って町の魅力を探し出し、データとして目にできるような形にする。それを地域資源として、もう一度見直し、PRすることにより、単なる地域資源に終わらせることなく、観光資源にまで高めていくような形になればと思う。

私自身も自分の町にあるものをもう一度見直して、もっと活用する方法があるのではないかと考えており、今みんなと模索している。

(委員)

私も、県の10年後という大きなことを想像するのは、難しいので、自分の10年後を想像して、どうなってほしいかを考えた。先ほどの意見にもあったが、やはり人口減少に歯止めをかけてもらいたい。

私は今30代前半で、これから子どもを産み育てる世代だが、もし子どもがいれば10年後には小学生ぐらい。子どもは欲しいが、育てることができるか不安があり、まだ踏み切れないというところがある。

私は県外から嫁いで来ており、自分と主人の両親がいない核家族で、その中で仕事をしながら子どもを育てていくことに、少し不安がある。行政や地域の人達が子育てのサポートをしてくれる社会、そうした社会が実現すると、安心して子どもが産める。

県外から若い人達を呼び込む際にも、県外から単身で飛び込んで来たは良いが、子どもを産んでも周りのサポートがなければ、不安で仕方がないという面があるので、その部分をサポートしてもらえれば、家族が増え、明るい未来に繋がるのではないかと思う。

(委員)

この意見の中にも、教育・福祉のところで「介護人材を確保するために、待遇等の改善に取り組むとともに、中高生を対象とした介護施設での職場体験などにより…」とあるが、私がずっと思っているのは、中学生に介護体験というのではなく、実際にヘルパーの3級等を取ることをカリキュラムに入れていただき、実際に介護ができるようにすること。

もう1つこれに救命救急の初歩的なものを入れて、必修で中学生が勉強する。それを毎年積み重ねると、みんなができるようになってくる。そうすると東南海地震の際など、傍らで倒れている人がいた時、助けることができるかもしれないと思う。

現状は単発的にやっており、やっている人だけがやっているような感じであるので、これは教育委員会に関わってくるが、実現できればと思う。その際の講師ということになれば、医師会とか社協などが協力してくれると思う。

これにより「安全・安心」に繋がっていく。お金がそれ程かからず、すぐに取り組めることだと思うので、提言させていただいた。

(部会長)

それでは、意見交換をさらに進める上で、これまで皆さんからいただいた意見の中から、私の独断になるが、キーワードを拾ってまとめてみたいと思う。そして、さらに意見があれば、時間の許す範囲でご発言いただきたいと思う。

皆さんが一番心配されているのは、人口減少と高齢化。これはほとんどの皆さんから意見があった。あと個別としては、中心商店街の問題と自然災害、それから経済。これからどうなるのか、良くなっていけば良いが、10年後となると経済状況は予測しづらい。

そういう中、一方で徳島として誇れる点としては、自然環境の良さ、住みやすいということ、それから町の魅力もたくさんある。ただ、これをうまくアピールできていない。それをアピールすることによって、町を活性化させる。まさにこれは人口対策として、UターンとかIターン、あるいは交流の引き金になっていくということで、マップを組み込ん

でいけば良いのではないか。

皆さんから個別にたくさんの意見をいただいたが、全部という用語弊があるが、ずっと繋がっていると思う。

これは皆さんのご意見と少し離れると思うが、私の専門は地域づくりとか都市づくり・まちづくり、とにかく計画づくりが仕事なので、色々考えている。人口減少・高齢化社会、10年、20年、30年ぐらい先を見ながら仕事をしているが、今、地方都市ではすごく車に依存しており、車に乗って日々の生活をしている。

しかし、高齢者予備軍である40代、50代、60代の人達が80代になると、車を運転できなくなる。公共交通機関の整備が不十分なので、その際、どうするかということになるが、1つの方法として、高齢者が歩いて暮らせる健康的なまちづくりをしたいと思っている。

高齢者が普段何をしているかを考えると、買い物や通院、それから銀行や役所に行ったり、趣味の講座に行ったりということになる。、こういうことを念頭に地域づくりをしていくと、都市内というのは、まだまだ施設があって、十分可能性がある。

しかし、現在たくさんの方が移り住んでいる郊外とか、その外側は、車がないと生活に不便で、そういったことを全体的に考えて町づくりをすると、可能性があり、面白いと思う。これがいわゆる「コンパクトシティ」の一種。

そういった中で特に言われているのが、「買い物難民」という言葉があるように、高齢者が買い物に困っている現状であり、そのため、買い物環境の整備に取り組んでいるわけである。しかし、それだけでは不十分であり、高齢者の日常生活をすべて見ると、買い物だけではなく、他のことも整えなければならない。これがまさに地域づくりある。

したがって、それぞれ皆さんの意見を組み合わせ、10年後の徳島づくりということを考えていけば良いと思う。その時に、難しいことかもしれないが、まずは10年後がどのようなものか、共通認識として持たなければならないと思う。

課題に対して、何をすべきか考える際、是非この会は、「行政にやってほしい」「何かしてほしい」ではなく、主体的に「我々がやる」という、そういった気持ちでいきたいと思う。

課題を見つけて、その課題解決のためにどうするのか。これはビジョンで、ある程度ビジョンができると、それに向かって達成する目標を作って、アプローチのロードマップのようなものを作っていけば良いと思う。

少し難しいが、まだこういった会はあるので、10年後のことを考えていただきたい。資料はたくさんあるので、必要があれば事務局で用意する。それに対して、皆さんは、それぞれ専門の分野で結構なので、「こうすべきだ」という意見を言っていただき、それを事務局でまとめていただく。

10年後と言っても難しいが、分かりやすく言うと、皆さんの歳に10歳足してもらって、逆に10年間というのはどれぐらいかと言うと、皆さんの歳から10歳引いてもらって、想像してもらって良いが、ただ時代のスピードが加速度的に動いていることから、そう簡単ではない。

少し私から喋らせていただいたが、これに対して皆さん、何でもご発言いただき、この会を盛り上げて良い計画にさせていただければと思う。



(委員)

10年後と言うと、私はもう高齢化の真っ只中だと思う。その時に自分が今の生活を維持しているかということ、難しいと思う。今、私は移動手段としてマイカーに依存しているが、運転ができなくなった時に、この徳島でどうやって生活していくのかと思うと不安である。

現在、車社会で色々と道路整備などがなされているが、「コンパクトシティ」の構想が一番良いと思う。マイカーに頼らず、徒歩や公共交通機関でどこにでも移動できるまちづくりが重要で、もう既に差し迫った問題となっていると思う。

公共交通機関の充実と自転車道路の整備は、今後、欠かせないものと思うが、それが、なかなか進まず、もどかしいところがある。

(部会長)

そういう課題を抱えながら、現状のシステムで言うと、公共交通機関の整備は事業として、独立採算でやっているのだから、なかなか難しい問題だと思う。

(委員)

「パラダイムシフト」とよく言われるが、もうそれがないと難しいのではないかな。10年後、「徳島県がこんなに変わった」というようなことが、あちこちであれば良いと思う。

(委員)

これから、中国が人民元を切り上げたり、おそらく10年後、ものすごく大きな商売相手になっている。現在と真逆のような関係になっている可能性がある。

その際、徳島のものを売る時、例えば、中国には木がないので、木材を売る時、言葉の障害が出てくると思う。ここは、やはり教育ではないかと思う。

私は町の教育委員をやらせていただいております。最近、小学校の英語教育が始まっており、小さい子に英語を教えると結構喋っている。喋るというより自然に発音している。やはり、10年後に効果があるのは教育ではないかと思う。

我々の資源は限られているし、経済力も限られていることから、特に中国語か英語のどちらかを小さいうちからしっかりと教え込んで、有能な人材を輩出すれば、すごいことになるのではないかな。あっと驚く10年後になる可能性があると思う。

(部会長)

面白いアイデアと思う。なかなか義務教育というのは難しいが、どんどんそういったチャンスを与えていくことが大切と思う。

(委員)

確かに10年後と言うとなかなか難しく、私も10年後は50歳になる。医療とか高齢化の対策というのはもちろん必要だが、商店街とか青年部といった立場で考えると、やはり若い人が楽しい街をある程度は築いていかないと、高齢者だけの社会という方に流れてしまい、若い人が離れていくのも事実と思う。

それに対してどうすべきかということも、具体的に作っていくのだろうと思うが、先ほど部会長も言われたように、行政が何かをするというのではなく、例えば私たちがあれば商店主であるとか、民間の人が試されるような時代になってきたと思う。

例えば高速道路が、マニフェストどおりにいくと無料になるという時に、県外客とか県外の車が入って来る。そういった時に、商店主は、きちんとその人たちを受け止める方策を取らなければならない。それを行政がグラグラしていると、商店主も非常に迷う。

一旦、高速道路が無料になると、それに対して何かやるのは、我々の責任だと思う。だから、そういった情報をきちんと商店主が捉えて、きちんと行動を起こしていくということを、もう少し充実させた方が良いのではないかと思う。

正直に言うと、こういった綺麗事ばかり言っても、今の商店主はなかなか動かないが、「こういうことがあると、もっと儲かる」とか「もうちょっと人を楽しませましょう」など、行政サイドから何か一つプッシュがあると、動きやすくなると思う。積極的に民間が動いていけるような環境づくりを着実に進めることが必要だと思う。

また、若い人たちは、流行などに非常に敏感である。そこを捉えていかなければならない。それも商店主の責任と思う。私も事前に若い人から「スターバックスができて良かった」とか「マツモトキヨシが良かった」などの意見を聞いた。確かに彼らにとっては、そうだと思うし、そういったところが、ある程度あって良いと思う。

そういったものをすべて求めるというのではないが、幸いなことに徳島の人みんな徳島のことが非常に好きなので、行政と民間が互いに緊密に連携し、「徳島を一緒に変えていく」というような、アプローチができれば、非常に良いのではないかと思う。

私もこういう会に参加させていただくことになり、ある程度行政のことが分かってきたが、一般の人はあまり知らないと思う。

しかし、今はすごく良い契機になっていると思う。色々なNPOができたり、商店街の組合ができたり、そういったところをどんどん活用していくべきと思う。私としては、そういうところのパイプ役だと思っており、そういった責任もあると思っている。

(部会長)

今の話を聞いて、私がちょっと言い過ぎたかなと思うところがあった。先ほど、「行政に何とかしてほしいというのではなくて」と言ったが、それも有り得る。お互いに得意技があるので、連携を図っていくことが重要。

行政が主で県民が従というのが良い場合もあるし、県民が主で行政が従というのが良い場合もある。また、フィフティ・フィフティの関係が良い場合もある。目的により、一番最適なシステムを作ってやっていく。そういうことを言いたかった。

あと1つ、〇〇委員が言われた人口減少に歯止めをかけるということで、人口の増減を見た時に、「自然変動」である「生まれてくる子と死んでいく人の数」と「社会変動」の両方で変動しているので、両方を見ていかなければならない。

今、「自然変動」はずっと下がってきていて、なかなか難しいが、日本全国の「社会変動」を見ると東京が一人勝ちであるため、地方は両方を見なければならぬ。厳しい中、両方でいかに上手い方法を取っていくのか考えていかなければならない。

(委員)

人口減少や中心商店街が寂しくなっていくという状況があったとしても、部会長から話があったように、県民として10年後こういう姿を目指すんだという共通認識は、みんなの意識として分かりやすいものを掲げていくべきと思う。

あと、「高齢者が歩いて住める町」というのをコンセプトの1つに入れるという意見があったが、私が直接話を伺った高齢者の方によると、高齢者でも単に病院や銀行に行けるとか、買物ができるというのではなく、楽しみが必要ということであった。ルートの便利になっても、楽しみがなければ生きていく価値がないとの言葉が、印象に残っている。

一方、「高齢者ばかりに重点を置くと、若者が離れていくのではないか」という意見もあったように、どちらかに片寄ると上手くいかないの、ある程度両者にとっての折り合い地点を見つけて、良い方法を探していくべきだと思う。

また、人口減少という話もあったが、何か施策を打ってもすぐに効果が表れるものではない。県内でも市町村ごとに見ていくと三好町とか上勝町は、推計ではどんどん下がっていくという数字が出ているが、実際はそれより増えている。

Iターン、Uターン、Jターンの方が増えて、実績が上がっている地域もあるので、そういった地域を先進的なモデルとして、計画に取り入れていくということも一つの案と思う。

(部会長)

今日はたくさん意見をいただいたが、もう少し現状を認識するというか、また、将来をもう少し共通認識を持って、というところもある。

それでは、予定の時間が来たのでこれで意見交換を終わらせていただき、次回またよろしくお願ひしたい。

最後に知事から今日の感想とか、次回への期待をご発言いただけたらと思う。

(徳島県知事)

ありがとうございます。冒頭に部会長から仰っていただいたように、やはり10年先を考える時というのは、10年前と今を比べてみるということが大切で、この話は、今回、若い皆さんや地域で、「10年後のとくしま」に関しご意見をいただく際も申し上げてきたところである。

そうすると、特に大学生の皆さんと話をした時にびっくりする話が出てきた。つまり「徳島はプロサッカーもあるし、プロの野球もあるし、だから日頃結構、楽しめる。早くヴォルティスがJ1に行っていて欲しい。ワールドカップがあるんだったら、早くサムライジャパンにヴォルティスの選手に入ってもらいたい。」

10年前、例えば平成12年、13年当時、徳島はサッカーもない、野球もない。こんな話でした。それから文化についても、例えば、「人形浄瑠璃はすごい」と当たり前のように言っているし、阿波踊りも今や映画にもなっている。

ところが、当時のマスコミの報道等を見ていると、「徳島は文化不毛の地」「文化果つる地」とある。私もちょうど徳島で10年目になるが、来た当時、商工労働部長の時に、「徳

島にはどんな良いところがあるの」と県庁の面々に聞いたら、「部長、徳島には何も無いけん」との答えで、徳島はなかなか珍しいと思った。新潟、埼玉、山梨とずっと赴任して、また日本津々浦々を見てきて、みんなこの位しか良いところがなくても、100や200は言う。ここからも分かるように、徳島は非常に珍しい地域。

さっき〇〇委員から10年間であまり変わっていないという話もあったが、NPOの話があったように、当時NPOがスタートし、当時、徳島はNPO法人の数が全国最下位だった。

しかし、〇〇委員の先ほどの話で、「今、NPOは大変増えました」というお話があった。当時の徳島での指標のあり方というのは、最下位ばかりであって、だから、「何も無いけん」と言うのだけれども、そうではなく、これは可能性がある。つまり、これからNPOの役割がどんどん増してくるのであれば、徳島は数で競わなくてもいいではないか。もし日本一に拘るのなら、その毎年、毎年の伸び率の日本一でも構わないということを行った。現に、今ではもう数自体が増えている。ましてや環境の場合は、本当に多くの活動を皆さんがやってくれて、日本でも環境の活動だったら川をはじめ、また、アドプトプログラム発祥の地でもある徳島を見習えという風に言われている。

ということで、この10年間で本当に色々なものが変わってきていると私自身も実感している。今は誰も「文化果つる地」と言う人はいないし、「徳島は何もないけん」という人も、あまりいないのではないかな。

あともう一つ、これも少し前にこのテーマで話をした時に、今、スーパーが変わったという話があった。〇〇委員は魚屋さんをやっているから実感があると思うが、スーパーへ行ってわかめを売っていて、私も買いに行ったら、なんと、三陸わかめを売っている。鳴門わかめの産地の徳島なのに、県外の大手のスーパーの場合、三陸わかめを売っていた。鱧なんかは見たことがなかった。

でも今や、「鱧と言えば徳島」。今のPRはどうしているかというと、もう7月になったので祇園祭、それから大阪天神祭、そして8月の徳島の阿波踊り、これを合わせて「日本三大祭りは鱧を食べる、そして徳島にいらっしゃい」とPRしている。今やこういう時代になった。

鶏は何をやっているかというと、「阿波尾鶏」。これはもう当たり前である。

そういった形でこの「地産地消」というのが、ものすごく進んで、逆に県民の皆さん一人ひとりが、まさに歩く広告塔として「徳島はこれだけ美味しいものがあるけん、みんな、はよ来いや」とか、「食べるんやったら徳島の鶏、阿波尾鶏を食べてや」という、今やもうそんな時代になっている。

逆に、お医者さんの話になりますと、10年前は「医師過剰だ、どうするんだ」、あるいは「看護師も多い」と、こんな話ばかりだった。ましてや県立中央病院と徳島大学病院が隣同士で、「あんな無駄はない」と言われていた。ところが突然、国が制度を変えた途端に医師不足。そして、看護師不足が起きた。県内でも県南・県西では分娩がもうできない。こんなことは10年前には考えられもしなかった。こういったマイナスのことも実は起きている。

しかし、先ほど話が出たように、マイナスを逆にプラスに転じることによって、これが逆に新たなビジネスチャンスにもなる。福祉もそうだし医療もそうである。医療観光を今

までは誰も考えなかった。

しかし、そうしたものを徳島が県を挙げてやろうということになってくると、「これが日本のビジネスモデルだ」と言って、テレビはもちろんのこと、国も、「新成長戦略は医療観光だ」と言い始めるという、何か面白い時代が今来ているのではないか。

また、経済の点で言うと、10年前、平成13年、この時も大変な時代だった。どちらかというところ公共事業で経済を浮揚していこうという時代だったのに、それから「これだけの借金を重ねて大変じゃないか、効果が出ないんじゃないか」という話になってきて、今ではとうとう「コンクリートから人へ」という話になり、対前年で18%減になるような時代になってしまった。

という中で、では雇用はどうなるかというと、従来は東京都、圧倒的にスーパーパワーだった。今、雇用の数で一番よく言われるのが有効求人倍率で、確かに正規・非正規の問題はあるが、去年の7月以降、徳島と東京の有効求人倍率を比べて、徳島はただの一度も負けていない。

今、徳島県は全国で、5月は全国第3位になったけれど、2月・3月・4月は第2位、今やそういう時代である。だからやはりこの10年間というのは、ものすごくパラダイムシフトが起こっているし、地方だから必ずしも東京に勝てないという時代ではなくなってきていて、逆に地方こそ勝てる。

だから、おそらく〇〇委員も「徳島が好き」というだけではなく、可能性があるから戻ってきていると思う。そうでないと戻ってこない。ということで、ぜひ皆さんも10年前と今を比べていただき、そこに色々な可能性が実証されているので、更に今度は10年先を見越して「これがあるから無理」と言うのではなく、「これはひょっとしたらいける」という形を、是非もっともっと仰っていただきたいと思う。

今回、色々な形で色々な世代の皆さんと話をしてきていると、今日お話しいただいたものも、これは即やればいけるんじゃないかというのがたくさんあった。先ほどの福祉の話、介護の話は、「介護保険料日本一、これをどうする」とみんな頭を抱えているが、そうではない。〇〇委員の仰るとおりで、他県は急激に高齢化しても、高齢者対策を何もやっていない。人口減少対策についても、何もやっていない県がある。そうしたところが、話にあったように、急激に投資する力もなくなっている訳だから、そうするとただ人口が多いという所だけが良いのではなく、ではどういう人口を伸ばすのかということになってくる。

先ほど、雪国の高齢者は大変だという話があったが、それならば、「徳島にいらっしゃい」と、あるいは緩和ケアの問題もあるし、色々なところで皆さんに知恵をお出しいただきたい。これからは、皆さんからいただいている税金を原資として、皆さんからの色々な知恵に対して、行政がコーディネーター役となっていく。20世紀型のように「公は官だ、私は民だ」という時代ではなく、公を官・民、そして間を繋ぐNPO・ボランティア、新しいそういう組織で、どうこれを担っていくのかという、全く価値観が変わってくる時代が来る。逆に「知恵は地方にこそあり」で、知恵は民の中、生活の中にこそあるという、こうした時代がこれからだと思うので、ぜひ大胆なご意見をいただきたい。

例えば、「夢の中でこんなのがあったけど夢物語だな」というのが、逆に一番県民の皆さん、あるいは国民の皆さんにとっての大きな期待・希望になってくると思うので、ぜひそうしたものを次回以降お寄せいただきたい。そして、行政としてはそうしたものにいか

に協力できるか、そしてそれを日本の中で磨きをかけていけるか、そうした形に取りまとめていければと思っているので、よろしく願いしたい。

(部会長)

意見をいただける場合は、事務局に郵便、電子メール、何でも結構ですのでお送りください。

今、知事が最後に言われたように、是非、大胆な意見をお願いしたい。法制度とか条例といったハードルがあっても、それを乗り越えて、変えるというのが、将来に向けてのことだと思うので、よろしく願いしたい。

#### 4 事務局説明

- ・ 本日の会議録の公表については、部会長と協議の上、公開する。
- ・ 次回の未来創造部会は9月開催予定。

#### 5 閉会